

猶	猶	皆	皆	珠	珠	日	日
若	若	悉	悉	光	光	月	月
聚	聚	隱	隱	焰	焰	摩	摩
墨	墨	蔽	蔽	耀	耀	尼	尼

無	無	如	如	威	威	光	光
与	与	是	是	神	神	顔	顔
等	等	焰	焰	無	無	巍	巍
者	者	明	明	極	極	巍	巍

書き下し

光顔巍々として、威神極まりなし。
 かくのごときの焰明、ともに等しきものなし。
 日・月・摩尼珠光の焰耀も、
 みなことごとく隠蔽せられて、なほ聚墨のごとし。

現代語訳

世尊のお顔は気高く輝き、その神々しいお姿は何よりも尊い。
 その光明には何ものも及ぶことなく、
 太陽や月の光も宝玉の輝きも、
 その前にすべて失われ、まるで墨のかたまりのようである。

味わう

- 巍巍 山などの高く大きさま。徳が高く尊いさま。
- 焰明 光明のこと。光明とは、私たちが抱いている身心を煩わせ、悩ます煩惱を破るはたらきをあらわしている。
- 摩尼 珠・宝石類の総称。不思議な力をそなえた宝珠。
- 聚墨 墨のかたまり。

光顔巍巍 (こうげんぎぎ)

「讀仏偈」は、「光顔巍巍」という言葉から始まります。「光顔巍巍」とは、法蔵菩薩が世自在王仏の徳をほめ讃えた言葉です。法蔵菩薩は、何よりもまず光り輝くそのお顔をほめ讃えられました。世自在王仏の清らかな心がそのまま表情に表れていたのでありましょう。

ところで、私たちの顔が光り輝いているように見えるときは、どのようなときでしょうか。目標に向かって一生懸命になっているとき、うれしさや喜びを体いっぱいに表示しているときなどが思い浮かびます。このような一生懸命な姿やうれしさ、喜びは、だれが見ても自然と伝わってくるものです。

法蔵菩薩が世自在王仏のお顔を光り輝いていると讃えられたのは、世自在王仏が深く喜んで説法をされているのが法蔵菩薩に伝わったからであり、また法蔵菩薩がその説法を聞いて深く喜んだからにほかなりません。